

Title	京大広報 No. 428
Author(s)	
Citation	京大広報 (1992), 428: 305-318
Issue Date	1992-05-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/209225
Right	ファイル中には未許諾による非表示部あり.
Type	Others
Textversion	publisher

京大広報

No. 428

京都大学広報委員会



平成4年度学部入学式 —関連記事本文 306 ページ—

目 次

学部入学式における総長のことば……………	306	完全週休二日制の実施に伴う附属図書館中央図書館 の土曜日の利用について……………	312
大学院入学式における総長のことば……………	308	<資料>	
<栄誉>		平成4年度入学試験諸統計……………	313
岡本道雄名誉教授がドイツ連邦共和国		<随想>	
大功劳十字星章を受章……………	310	儒教の弁護	
<紹介>		名誉教授 島田 虔 次……………	317
教育学部における生涯学習計画講座の新設……………	311	<コラム>	
計報……………	311	性病のうつりかわり	
		医学部教授 今 村 貞 夫……………	318

学部入学式における総長のことば

平成4年4月13日

総長 井 村 裕 夫

本日ここに元総長岡本道雄先生、沢田敏男先生、前総長西島安則先生、名誉教授の諸先生、部局長、教職員の方々の御臨席のもと、平成4年度入学式を挙行し、2,925名の新入生及び27名の編入者または再入学者、合計2,952名の諸君を京都大学の新しい構成員として迎え入れることができましたことは、誠に慶びとするところであります。

新入生諸君、入学おめでとう。今日までの経歴は個人によって異なるでありますが、それぞれに志を立て勉学に励んで来られたことと思います。案外楽だったと感じている人も、随分苦しい思いをしたという人もありますが、いずれにせよ初志を貫徹して合格の榮譽を得られたことは誠におめでたいことであります。京都大学を代表し、心からのお慶びと歓迎の意を表します。また今日まで新入生諸君を支えて来られた皆様にも心からのお祝いを申し上げます。

諸君がこれからの学生生活を送る京都大学は、明治30年（1897）に創設されましたので、本年で95周年を迎えることとなります。この間、京都大学は独自の学風を築き、多くの創造性のある人材を育成してきました。日本のノーベル賞受賞者に京都大学卒業者が多いのは偶然ではないと考えます。新入生諸君を迎えるにあたり京都大学の学風にはどういった特徴があるのか、その特徴はどのようにして醸成されたかについて、私の考えを少し述べてみたいと思います。

京都大学が創立される前には、明治10年（1877）に創設された帝国大学（現在の東京大学）があっただけでありました。この帝国大学は文明開化の時期にあって日本の政・官界、財界、学界を支える人材の育成を行う唯一の機関であったわけであります。日本に第二の帝国大学を作るという案は明治10年代からありましたが、明治25年（1892）長谷川 泰ほか33名の議員は「関西に帝国大学を新設する建議案」を時の帝国議会に提出しました。その建議案の中には「日本でただ一つの特権的な大学があるだけでは、ややもすれば学生も教師もその地位に安住しがちになるので、関西に競争者を作り、相互に刺激し合う状況を新たに作りださねばならない」という意味のことが書かれています。この建議案は日清戦争勃発のためすぐには実現されませんでした。明治30年になって漸く京都に第二の帝国大学が創設されたのであります。このように京都帝国大学は東京帝国大学と切磋琢磨することにより、ともにわが国の発展、学問の進歩に寄与することを期待されて登場したということが言えましょう。

新設の京都帝国大学に迎えられた教授の多くは東京帝国大学の卒業生でありましたが、ドイツに留学して当時の世界の最先端の大学での生活を経験した人が大部分でありました。ドイツの大学はイタリア、フランス、イギリスほどの古い歴史は持っていませんが、19世紀初頭にフンボルト（Karl Wilhelm von Humboldt）が中心となってベルリン大学が創立されて以来、学問の自由と大学の自治を旗印に多くの大学がめざましい発展をとげました。京都大学の初代教授になった人たちが留学した頃のドイツは、大学が最も繁栄した時期であり、ゼミナールなどの新しい教育法が試みられていました。そして留学生の中にはこのドイツの大学制度が日本の範となると考えていた人が多かったことと思われます。このことは京都帝国大学法科大学（現在の法学部）の高根義人教授が書かれた「大学の目的」、「大学制度管



見」という論文を読んでも明らかであります。高根教授の論によりますと欧米の大学には二つの型があり、その一つはフランス型で専門教育を授け、実用型の人間を作るところであり、教育と研究が分離されています。いま一つはドイツ型で教育と研究の統一を理想としております。高根教授の文章を引用しますと「ドイツでは初めより大学を以て単に学術を教授する所とはなさずして、学問そのものの養成所たることに着眼せり」ということであります。すなわち学問の研究と教授とともに目的としたところが、フンボルトの理念であり、当時のドイツの大学の理想でありました。レクシス (Wilhelm Lexis) が『ドイツの大学』という本に述べている言葉、「学生は一所懸命講義を聞き、復習をし、参考書を読んで試験に合格しても、それだけでは本質的に何かが欠けている。それは自分自身で探究する力が身についていないのだ。」という考えが、当時のドイツの大学の教育哲学であるように思われます。

高根教授も指摘していますが当時の東京帝国大学は、フランス型であり、学生に一定の順序を与えて講義と試験を行い、研究の素養を得る暇がないという状態でありました。すなわち学生は教えられたことを一所懸命暗記して試験に合格することに精力を注いでいたと言ってもよいかも知れません。そこで新設の京都帝国大学法科大学では当時としては思い切った実験が行われました。それは授業時間数を減らし、ゼミナール（演習）と卒業論文の制度を設け、学生が自分で問題を見つけて自分で結論を得ることを目標としました。ここに京都大学の学風のルーツがあるように思われます。そして政治・経済の中心とは離れているという地理的条件と相まって、自立・独立の精神が強く、創造的な研究を尊ぶ京都大学の学風が醸成されたものと私は考えます。

大学では単に講義を聞き、それを暗記するのではなく、自分の頭で考え、疑問があれば自分で解決を見出すということが重要であります。このことは大学入学までの諸君の勉強の仕方とは根本的に異なるところであります。もちろん大学においても記憶しなければならないことは随分多いと言えます。しかしその中でかなりの時間を割いて、既存の知識にとらわれず、自分で考える習慣を身につけてほしいと思います。その意味でこれからの学生生活は諸君にとって生涯の最も大切な時期であります。与えられたものを消化するだけでなく、自分のものを作り出して行く時期、すなわち人生の第二の誕生と言ってよいかも知れません。

考えてみれば現在の生活は余りにも多忙で、思索の時間をなかなか与えてくれません。有名な『昆虫記』を書いたファーブル (Jean Henri Fabre) は幼少期に祖父の家に預けられ、淋しい山村で育ちました。何かを教える大人たちも、玩具も、絵本も、もちろんテレビも、ファミコンもない環境で育ったファーブル少年には、無限とも言える時間と興味に満ちた自然がありました。夏の宵、弱い微かな音がする、その音が何によるのか知りたくて近づいてみる、とその音が止む、何日もかかってファーブル少年は、その音の主が小鳥ではなくバッタの一種であることをつきとめます。そこに自分で疑問を持ち、



努力し解決していく喜びをファール少年は感じたことでしょう。この姿勢は後年学問をするようになって貫かれます。ファールは書いています。「人間というものは自分で学んだこと以外はよくわからないものだ。これだけは君に忠告しておくが、自分でよく考えるということ以外に、よそから助けを受けるのはできるだけよしたほうがいい。学問ではとくにそうだ。学術書というのはぜひ自分で解かなくてはいけない謎みたいなもので、その謎の鍵をひとからもらおうと、この説明ほど簡単であたりまえのことはないように見える。だがそういうやり方だと、次の謎が出てきたときにも、前と同じように手が出ないであろう……」

このファールの精神はすでにお話ししたことから明らかのように、実は京都大学の建学の精神と同じであります。長い京都大学の歴史の中で、私達の多くの先達は自分で考え、自分で解決をする努力をし、ユニークな学問を打ち立てて来たのであります。私が諸君に学んでほしいのは、百科辞典のような知識ではなく、学問する^{あり}方法であります。これを学ぶには京都大学ほど適したところはないと言えます。受験勉強の^{あり}澱は一日も早く棄て、しっかり自己をみつめて勉強して下さい。

諸君が活躍する21世紀は、20世紀以上に激動の世紀となると思います。そのためには頑健な体、強靱な意志、そして人間と自然へのやさしい情感も必要です。そのためスポーツを楽しみ、文学や芸術に触れ、自然科学を学ぶことも大切であり、これからの学生生活にはなさねばならぬことは大変多いと言えます。諸君の京都大学における生活が楽しく、しかも有意義であることを祈って、私の式辞といたします。

大学院入学式における総長のことば

平成4年4月13日

総長 井 村 裕 夫

本日ここに前総長西島安則先生、各研究科長、教職員の御臨席のもと平成4年度大学院入学式を挙行し、修士課程1,293名（うち外国人留学生65名）、博士後期課程580名（うち外国人留学生94名）、合計1,873名の諸君を大学院に迎えることができましたことは誠に慶びとするところであります。心からお祝い申し上げます。諸君が京都大学の大学院に入学することができましたのは、今日までのたゆまぬ努力とすぐれた資質によるものでありますが、同時に諸君の大学院入学を可能にして下さった周囲の方々の御理解と御支援によることにも思いを致し、感謝しなければならないと思います。

現在わが国では、大学の改革が教育の大きい問題となっておりますが、なかでも大学院の充実是最も重要なテーマの一つであります。わが国の大学への進学率はアメリカについて世界第二位ですが、大学院への進学率はアメリカは言うに及ばずヨーロッパ諸国よりも低く、質量ともに大学院の改善が望まれています。歴史上で大学院が初めて登場したのは1860年のアメリカであります。この年エール大学で博士号をめざす者のためのコースが設置されました。更に1874年には本格的な大学院大学をめざしたジョンズ・ホプキンス大学がボルチモアに設立されました。当時のアメリカは学問的には後進国であり、ドイツの大学が世界で最も高い評価を得ていましたが、ドイツには大学院はありませんでした。アメリカはドイツに追いつき追い越すため、大学院という戦略を採用したと言ってもよいかも知れません。20世紀に入るとアメリカの大学院は急激に膨張し、多数の学生を擁するようになり、やがて世界の学問王国へと発展していったのであります。この発展には二度の世界大戦によるヨーロッパの疲弊、学者のアメリカへの亡命、アメリカの経済発展などいくつかの要因があるかと考えますが、大学院が一つ



の重要な役割を果たしたことは疑いありません。

一方わが国の大学院は明治19年（1886）に東京帝国大学に設置され、以後第二次世界大戦後の学制改革までこの制度が存続しましたが、実質的には研究者養成機関としては十分機能しませんでした。その理由の一つは戦前のわが国には大学が少なく、研究者の市場が狭かったことによるかと思います。戦後の学制改革でアメリカ流の大学院制度が作られましたが、実質的には学部中心の戦前の影響が残ったものでありました。そしていま第二の大学院改革の時代を迎えている訳であります。

それではなぜ大学院の改革が必要になってきたかと言いますといくつかの理由が考えられます。まず第一に学問が進歩して学部4年間だけで専門の教育を十分にすることが難しくなったということがあります。第二に大学以外の研究機関が増え、研究者をより多く養成することが必要となってきました。また研究以外の専門職の人でもより高度の知識を学ぶ必要が生じてきました。そして第三に研究の高度化、大型化と国際競争の激化により多数の研究者を必要とするようになったことがあげられます。こうしたことから京都大学でも改革が進められ、昨年には独立研究科人間・環境学研究科が発足し、本年には法学部が大学院中心となるように改組されました。また法学研究科に社会人の再教育を目的とした専修コースが発足し、43名の人を迎えることができました。

大学院においては教育と研究が不可分のものとなります。特に博士後期課程では、研究を通じて専門分野の勉強をすることになります。わが国の研究につきましても独創性が少ないとか、基礎研究が弱いなどの批判が国の内外でなされています。確かにそういう批判はあたっているところもないわけではないのですが、これはわが国の近代がまだ100年あまりの歴史しかもっていないことが原因の一つであると考えられます。

明治初年、日本政府は西欧文明を速やかにわが国に導入するため御雇外国人を招へいし、東京帝国大学で講義をさせました。その給与は太政大臣、いまの総理大臣なみであったと言います。当時の貧しい日本で教育にこれほどの投資をしたということは、為政者が今より遥かに立派であったと言うことでありましょうか。司馬遼太郎の言葉を借りれば、当時の東京帝国大学は西欧文明の「配電盤」で、京都帝国大学ができるまでわが国に西欧の「電流」を流し込む唯一の機関として機能しました。しかし、本日はお話しするのはそのこと自体ではなく、御雇外国人がどのように日本人を評価したかということでありま

す。それはベルツ（Erwin von Baelz）博士の話であります。この方は、私が主任をしていた医学部内科学第二講座の初代教授中西亀太郎先生の先生にあたる人であります。ベルツは南ドイツの生まれでチュービンゲン大学とライプツヒヒ大学で学び、明治9年（1876）27歳で日本にやって参りました。以後明治

35年（1902）に退職するまで26年間にわたって東京帝国大学で教鞭をとり多数の内科医を養成しました。私も含め日本の内科医の多くは何らかの形でベルツにつながっていると言っても過言ではありません。その意味で実に巨大な配電盤であったわけで、日本の内科学は彼によって始まったとすら言えましょう。このベルツの日本滞在中の日記が出版されていますが、明治裏面史としても、また明治日本に対する文明批評としても、甚だ興味深いものであります。ベルツは日本人を妻とし日本文化にも深い理解を示していますが、同時に鋭い批判もしています。明治34年11月、ベルツは在日25周年の祝宴で日本の大学の将来のためと断って次のような言葉を述べています。「わたくしの見るところでは、西洋の科学の起源と本質に関して日本ではしばしば間違った見解が行われているように思われるのであります。人々はこの科学を年にこれこれだけの仕事をする機械であり、どこか他の場所へたやすく運んで、そこで仕事をさすことのできる機械であると考えています。これは誤りです。」とまず述べ、西洋の科学は一つの有機体であって、数千年にわたって幾多の傑出した人々の血のにじむ努力によって出来上がったものであると続けています。そして更に次のように述べています。「西洋各国は諸君に教師を送ったのでありますが、これらの教師は熱心にこの精神（科学の精神）を日本に植えつけ、これを日本国民自身のものたらしめようとしたのであります。しかしかれらの使命はしばしば誤解されました。もともとかれらは科学の樹を育てる人たるべきであり、またそうなると思っていたのに、かれらは科学の果実を切り売りする人として扱われました。かれらは種をまき、その種から日本で科学の樹がひとりでに生えて大きくなれるようにしようとしたのであって、その樹たるや正しく育てられた場合絶えず新しい、しかもますます美しい実を結ぶものであるにもかかわらず、日本では今の科学の成果のみをかれらから受取ろうとしたのであります。この最新の成果をかれらから引継ぐだけで満足し、この成果をもたらしした精神を学ぼうとしないのです。」

このベルツの言葉は当時の日本に対する実に手きびしい批判であり、しかも100年近く経た現在にも通用する批判であります。基礎科学を気長に育てる努力をせず、手っとり早く応用研究に力を入れる日本人の性向は現在も続いているからであります。

諸君がこれから大学院生として生活する京都大学は学問の樹をしっかりと育ててきた大学であります。だからこそ京都大学から何人かのノーベル賞受賞者が生まれたのでありましょう。諸君にはまず営々として学問の樹を育て上げる精神を学んでほしいと思います。決して成果だけを取り急いではなりません。既存の知識を学ぶだけでなく新しい知識を作り出す方法をしっかりと勉強して下さい。大学院における諸君の生活が真に実り多いものとなることを祈念して私の式辞といたします。

<栄誉>

岡本道雄名誉教授がドイツ連邦共和国大功劳十字星章を受章

このたび、岡本道雄名誉教授（元総長）に対して、ドイツ連邦共和国政府から同国功劳勲章大功劳十字星章が授与された。

今回の勲章授与は、同名誉教授の研究者としての業績をたたえと共に、日独の学術・文化



交流についての顕著な功績に対するものとされている。

この勲章は、4月9日（木）神戸市役所において、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館のエアバハード・パウマン総領事から同名誉教授に伝達された。

<紹介>

教育学部における生涯学習計画講座
の新設

昭和24年5月、新制京都大学の発足とともに創設された教育学部は、当初4講座から出発したが、その後追々充実されて、現在では、教育学科、教育心理学科、教育社会学科の3学科14講座及び臨床教育学専攻（大学院独立専攻）の2講座、計16講座となった。このほか文部省認可の心理教育相談室が設置されている。

平成4年度から新たに教育社会学科に増設されることになった生涯学習計画講座は、現今の社会における産業構造や職業構造の急激な変化及び高学歴化と高齢化社会への移行にともなう人びとの「新たな学習ニーズ」を的確に評価・分析し、人間の発達にふさわしい学習環境のあり方や学校・地域・企業との教育活動を網羅した自己実現援助システムの再組織を探ろうとするものである。とりわけ生涯学習社会への移行が大学の教育・研究に対してその指針ないし方向づけを期待するところは大きく、今後、脱工業化と余暇社会への変貌を前にして、人間本位の環境づくりと社会の再組織化に関する基礎的、理論的研究を行う本講座の果たす役割はますます重要になると考えられる。生涯学習計画の理論的研究は、人間の生涯（ライフ・コース）の各段階に遭遇する学習課題をその

社会構造や文化的背景との関連において社会学的視点・方法にもとづいて行うものであるが、その研究にとってとりわけ青少年問題や学校教育にかかわるさまざまな教育問題の解明と青少年援助施策（ユース・ワーク）の策定は不可欠である。さらに中・高・老年のエイジングにともなう諸問題の解決、生涯職業能力やキャリア開発に対する継続教育、地域、家庭、学校、職場の連携的学習援助システム等の構築をめざすコミュニティ教育及びそのための人材養成なども理論的のみならず、実際の側面からみて重要な研究課題である。生涯学習計画講座は、このような社会体制次元の生涯学習課題や社会と個人にかかわる教育問題を社会学的に検討することを通じて、社会の再組織（社会計画）と学習環境の再組織（学習計画）を考究しようとするものである。その際、主として従来から教育社会学講座において蓄積されてきた研究・教育の学問的成果は大いに役立つであろう。

本講座は、このように、研究領域ないし守備範囲としては学校教育や社会教育に限定されることなく、広く、人間生涯の学習課題及び社会計画の視点から横断的に教育問題をとらえようとするものであり、その意味では、学際的な性格を有するのであるが、基本的には応用社会学的な性格をもつ生涯社会学、ないしは生涯学習計画の社会学の創出を期するものである。

（教育学部）

訃 報

小 田 良 平 名誉教授

本学名誉教授小田良平先生は、4月9日逝去された。享年85。

先生は、昭和5年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業、財団法人理化学研究所研究生・助手を経て同9年京都帝国大学助手、同11年講師、同12年助教授、同15年教授を任ぜられ、同39年より同41年まで文部省大学学術局科学官（京都大学教授併任）に出向、同41年より京都大学工業教員養成所長を兼任、同45年停年により退官され、京大

学名誉教授の称号を授与された。

先生は本学在職中の約36年間、工業化学科、合成化学科において有機合成化学、染料化学、高分子合成化学等の講義、研究を通じて幾多の人材を育成されると共に、独創的で顕著な多数の研究業績を挙げられた。

また、日本化学会、有機合成化学協会、日本油化学協会において、副会長、理事、支部長などの要職を歴任された。これらの業績に対し、昭和47年紫綬褒章、同53年勲三等旭日中綬章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（工学部）

完全週休二日制の実施に伴う附属図書館中央図書館 の土曜日の利用について

国家公務員の完全週休二日制の実施に伴い、附属図書館中央図書館では、本年5月以降、土曜日の利用について、次のとおりとしますので、ご理解とご協力をお願いします。

土曜日開館時間 10:00～17:00

ただし、本年5月2日、7月11日～9月5日の土曜日は、休館

土曜日のサービス業務

(1) 閲 覧 10:00～17:00

開架図書、新着雑誌、学術雑誌（5～10年分）、参考図書、新聞

(2) 貸 出 10:30～15:00

開架図書、新着雑誌（当日限り）、学術雑誌（製本）、貸出更新、予約

(3) 返 却 10:00～17:00

(4) 複 写（校費振替のIDカード利用に限る。）

10:00～17:00

なお、書庫入庫検索、書庫配架図書・雑誌の貸出、利用証の発行、視聴覚資料の利用、参考調査、相互利用業務等についての取扱いは、月曜日から金曜日をお願いします。

（附属図書館）



附属図書館中央図書館

＜資料＞

平成4年度入学試験諸統計

1. 募集人員、志願者数、合格者数、入学者数、合格者最高点・最低点（総点）等調

学 部 ・ 日 程		募集人員	志願者数	第1段階 選 抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点	
									最 高 点	最 低 点
文 学 部	前期	205	719	716	711	208	244	700	605.5	425
	後期	35	462	281	117	36		700	519.75	448
教 育 学 部	前期	50	210	194	193	52	74	800	597.49	499.74
	後期	20	195	189	118	23		1,000	648.83	579.41
法 学 部	前期	350	1,178	1,175	1,157	355	399	750	594.25	459.75
	後期	60	682	512	185	44		500	409	356.5
			75	40	36	20	13			
	後期									
経 済 学 部	前期一般	170	558	558	552	170	263	800	617.25	496.75
	前期論文	60	431	272	269	60		1,050	760	618.25
	後期	40	407	375	169	37	5	950	525.4	408.6
			42	20	15	7				
理 学 部	前期	294	1,139	1,100	1,085	295	326	650	532	378
	後期	32	1,602	1,547	1,082	32		400	311	248
医 学 部	前期	90	403	378	366	93	102	1,250	1,057.75	891
	後期	10	279	265	146	10		1,250	908.25	866.5
薬 学 部	前期	60	187	187	180	66	88	950	757.66	585.75
	後期	20	249	249	141	22		950	730.45	525.78
工 学 部	前期	947	2,482	2,477	2,456	947	1,060	1,000	822.91	580.75
	後期	113	1,195	1,193	608	114		1,100	891	674.5
農 学 部	前期	260	672	671	658	271	330	1,050	796.41	584
	後期	65	674	394	117	68		810	553.73	404.66
小 計	前期	2,486	7,979	7,728	7,627	2,517				
	後期	395	5,862	5,065	2,734	413				
合 計		2,881	13,841	12,793	10,361	2,930	2,904			

（備考）1）法学部，経済学部後期の下段は，外国学校出身者のための入学者選考を示す。

2）合格者数には追加合格者を含む。

3）合格者最高点・最低点（総点）は，前期（3月9日），後期（3月23日）の合格発表時のもので，法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

＜工学部・農学部学科別内訳＞

学部・日程・学科		募集人員	志願者数	第1段階 選 抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点	
									最 高 点	最 低 点
工 学 部	前期	947	2,482	2,477	2,456	947	1,060	1,000	822.91	580.75
	後期	113	1,195	1,193	608	114		1,100	891	674.5
土 木 系 学 科	前	112	288	287		112	125		763.91	599.66
	後	13	144	144		13			770.5	693.5
機 械 系 学 科	前	78	187	187		78	87		815.91	616
	後	9	106	106		9			834.75	727.75
電 気 系 学 科	前	126	334	334		126	140		821.5	636.66
	後	14	148	148		14			837.5	763
金 属 系 学 科	前	72	211	211		72	80		796.5	628
	後	8	88	88		8			850.25	716
建 築 系 学 科	前	85	210	209		85	95		822.91	628.16
	後	10	110	109		10			825	713.75
工 業 化 学 科	前	49	121	121		49	55		791.08	607.66
	後	6	62	62		6			784	707.25
石 油 化 学 科	前	49	150	150		49	56		701.58	582.25
	後	6	55	55		7			806.75	674.5
化 学 工 学 科	前	48	148	148		48	54		751.41	603.08
	後	6	67	67		6			802	711.5
高 分 子 化 学 科	前	40	86	85		40	45		723.25	594.66
	後	5	47	46		5			779.5	704.75
合 成 化 学 科	前	40	111	110		40	45		697.41	580.75
	後	5	50	50		5			801	676.5
資 源 工 学 科	前	36	100	100		36	39		730.66	611.66
	後	4	37	37		4			779	674.75
航 空 工 学 科	前	22	65	65		22	25		772.58	650.83
	後	3	36	36		3			881.25	795.5
原 子 核 工 学 科	前	22	57	57		22	25		790.16	640.08
	後	3	29	29		3			794.75	749.75
衛 生 工 学 科	前	40	87	87		40	45		779.33	650.75
	後	5	41	41		5			809	716.5
数 理 工 学 科	前	40	107	106		40	45		754.41	616.75
	後	5	60	60		5			891	735
精 密 工 学 科	前	38	128	128		38	43		750.58	631.33
	後	5	63	63		5			797.75	733.5
情 報 工 学 科	前	50	92	92		50	56		807.25	606.75
	後	6	52	52		6			755.75	681.5
農 学 部	前期	260	672	671	658	271	330	1,050	796.41	584
	後期	65	674	394	117	68		810	553.73	404.66
農 学 科		20	(前期 16名 後期 4名)				19			
林 学 科		20	(前期 16名 後期 4名)				21			
農 芸 化 学 科		74	(前期 60名 後期 14名)				73			
農 林 生 物 学 科		15	(前期 12名 後期 3名)				15			
農 業 工 学 科		41	(前期 33名 後期 8名)				42			
農 林 経 済 学 科		35	(前期 28名 後期 7名)				37			
水 産 学 科		23	(前期 18名 後期 5名)				24			
林 産 工 学 科		34	(前期 27名 後期 7名)				34			
食 品 工 学 科		38	(前期 30名 後期 8名)				39			
畜 産 学 科		25	(前期 20名 後期 5名)				26			

2. 志願者・入学者 出身高校所在都道府県別調

上段……志願者数
下段……入学者数

学部 都道府県		文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計	学部 都道府県		文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計
北海道		21	6	24	11	53	7	12	45	12	191	三重		19	4	26	22	42	5	7	41	6	172
		4	1	7	1	7	1	5	12	2	40			5	1	4	5	5	2	13	1	36	
青森		3		2	1	9	1		4	2	22	滋賀		28	7	33	34	37	7	11	77	34	268
				1		2					3			4	2	12	7	4	1	24	6	60	
岩手		8	2	2	4	5	2	2	3		28	京都		116	42	197	169	164	92	49	519	204	1,552
		1		1	1	2					5			24	11	58	31	25	10	10	144	47	360
宮城		2		5	4	10	1		8	2	32	大阪		187	68	396	242	416	106	113	840	294	2,662
				1	1	2			4	1	9			37	10	83	54	43	20	28	267	67	609
秋田		1		2		9		1	3	4	20	兵庫		84	32	215	132	182	131	40	358	128	1,302
						4			1	2	7			30	7	58	34	34	30	10	122	30	355
山形		8	1	6	4	8		1	10		38	奈良		50	10	106	75	83	33	34	206	68	665
		3		2					1		6			10	1	25	16	11	8	7	72	18	168
福島		4	1	3		21	2		7	4	42	和歌山		3	5	23	8	30	11	2	44	9	135
				2		4			2	2	10			1	1	3		5			12	2	24
茨城		10	3	20	11	36	5	2	15	6	108	鳥取		5	1	3	4	18	4	4	20	9	68
		3		5	2	3			2		15			1			2	2		1	6	2	14
栃木		10	2	7	8	10	1	2	14	3	57	島根		9	6	1	5	6	4		25	10	66
		3		1		2			5		11			3	2		2	2			12	2	23
群馬		18	8	17	9	25	3	4	17	8	109	岡山		18	7	28	20	29	8	6	82	24	222
		4	2	4	1	5			6	2	24			5		9	2	2	1	1	26	9	55
埼玉		29	6	22	28	82	8	3	48	29	255	広島		26	12	50	17	58	15	12	96	25	311
		2	1	2	2	5			9	3	24			5	4	8	2	8	2	3	32	3	67
千葉		35	10	41	37	115	13	11	74	32	368	山口		4	6	11	10	37	3	7	53	6	137
		9	2	5	4	7	2		15	4	48			2	1	3	2	6	1	1	20	1	37
東京		105	34	137	152	311	56	22	208	86	1,111	徳島		5	3	14	3	11	4		17	6	63
		11	3	16	16	27	4	5	28	18	128			2	3				1	1		8	1
神奈川		49	17	49	47	171	16	14	117	53	533	香川		18	5	36	26	19	7	3	38	13	165
		4	2	7	8	7	2	1	21	15	67			4	2	9	9	1	1		11	5	42
新潟		10	3	7	2	19		1	17	4	63	愛媛		11	6	15	16	27	13	3	32	17	140
		1		1		3			4		9			2	3	4	2	5	2		8	7	33
富山		11	6	12	15	16	2	4	21	21	108	高知		3	4	5	6	22	2	2	12	5	61
		3	1	2	3	1	1		7	6	24						2	3		1	1	1	8
石川		18	7	24	2	30	2	6	32	9	130	福岡		39	9	54	34	104	9	8	85	27	369
		7	2	6		4		1	8	3	31			13	2	12	8	13	1	1	24	6	80
福井		13	8	33	21	18	3	3	15	6	120	佐賀		1	3	2	3	6		4	12	5	36
		1	2	5	7	4			5	1	25							1			4	2	9
山梨		3	3	3	4	10	3	1	9	6	42	長崎		10		7	5	20	3		16	12	73
				1		2			2	3	8			2			1	1			4	2	10
長野		17	5	8	5	43	2	3	45	7	135	熊本		4	4	14	9	28	1		13	6	79
		3	1		1	1		1	7	1	15				1	2	3	5			3	2	16
岐阜		11	1	20	17	28	6	2	34	16	135	大分		8		5	9	27	3		7	3	62
		3		7	5	6			10	7	38			3		1		6	1		1		12
静岡		14	6	17	24	75	15	7	55	29	242	宮崎			1	5	6	13	4	1	16		46
		3		1	4	12	1	2	14	15	52					1	1	3		1	5		11
愛知		108	25	102	95	180	34	22	214	73	853	鹿児島		12	9	30	22	35	28	2	34	17	189
		24	4	20	20	24	3	4	65	26	190			2	1	6	3	5	9	2	11	5	44
												沖縄				3		8	1		3		15
																1							1
(備考) 1)												検定		13	7	16	17	31	6	5	14	6	115
														2			1	1			2		6
法学部……志願者75名，入学者13名												その他				77	43	4		2			126
																13	5	1					19
2) 高等専門学校出身者は，高等専門学校の所在都道府県に含む。												合計		1,181	405	1,935	1,438	2,741	682	436	3,677	1,346	13,841
															244	74	412	268	326	102	881	1,060	330

(備考) 1) 外国学校出身者のための選考を含む。

法 学 部……志願者75名, 入学者13名

経済学部…… 〃 42名, 〃 5名

2) 高等専門学校出身者は, 高等専門学校の
の所在都道府県を含む。

3. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

検…入学資格検定合格者, 専…高等専門学校出身者, 他…高校, 高専, 検定以外の者

学部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 4.3卒	浪 3.3卒	2.3卒	元.3卒	63.3以前	総 数	現 役 4.3卒	浪 3.3卒	2.3卒	元.3卒	63.3以前
文 学 部	1,181 (340)	689 (253)	344 (65)	98 (11)	20 (6)	30 (5)	244 (90)	144 (70)	79 (14)	17 (4)	2 (1)	2 (1)
	検 13	検 3	検 2	検 6		検 2	検 2	検 1	検 1			
		58.3			41.7			59.0			41.0	
教 育 学 部	405 (154)	223 (99)	118 (49)	46 (5)	7 (1)	11	74 (33)	53 (29)	16 (4)	5		
	検 7	検 1	検 3	検 1	検 1	検 1						
		55.1			44.9			71.6			28.4	
法 学 部	1,935 (320)	1,211 (242)	515 (61)	124 (12)	36 (1)	49 (4)	412 (72)	245 (51)	143 (19)	18 (1)	4 (1)	2
	検 16 専 1 他 77	検 4 専 1 他 75	検 3 他 2	検 8	検 1		他 13	他 13				
		62.6			37.4			59.5			40.5	
経 済 学 部	1,438 (118)	754 (75)	478 (35)	129 (2)	33 (3)	44 (3)	268 (22)	136 (16)	115 (6)	11	3	3
	検 17 専 1 他 43	検 3 他 42	検 8	検 3 他 1	検 1 専 1	検 2 専 1	検 1	検 1				
		52.4			47.6		他 5	他 5				
理 学 部	2,741 (226)	1,542 (132)	706 (60)	209 (8)	99 (8)	185 (18)	326 (16)	183 (9)	124 (7)	14	1	4
	検 31 専 1 他 4	検 9	検 10 他 4	検 4 専 1	検 4	検 4	他 1		他 1			
		56.3			43.7			56.1			43.9	
医 学 部	682 (89)	307 (42)	140 (19)	45 (6)	22 (3)	168 (19)	102 (12)	52 (6)	38 (6)	7	1	4
	検 6 専 1	検 1	検 1			検 専 1	検 1					検 1
		45.0			55.0			51.0			49.0	
薬 学 部	436 (142)	234 (95)	117 (32)	36 (5)	17 (2)	32 (8)	88 (34)	56 (22)	27 (10)	5 (2)		
	検 5	検 1	検 2	検 1		検 1						
		53.7			46.3			63.6			36.4	
工 学 部	3,677 (161)	2,219 (99)	1,156 (51)	213 (4)	35 (2)	54 (5)	1,060 (38)	598 (22)	421 (15)	34 (1)	4	3
	検 14 他 2	検 7 他 2	検 4	検 2	検 1		検 2	検 1	検 1			
		60.3			39.7			56.4			43.6	
農 学 部	1,346 (249)	648 (154)	460 (69)	147 (13)	33 (4)	58 (9)	330 (90)	164 (55)	128 (30)	26 (3)	5 (1)	7 (1)
	検 6	検 1	検 1	検 1	検 1	検 2						
		48.1			51.9			49.7			50.3	
合 計	13,841 (1,799)	7,827 (1,191)	4,034 (441)	1,047 (66)	302 (30)	631 (71)	2,904 (407)	1,631 (280)	1,091 (111)	137 (11)	20 (3)	25 (2)
	検 115 専 4 他 126	検 30 専 1 他 119	検 34 他 6	検 26 専 1 他 1	検 9	検 16 専 2	検 6 他 19	検 1 他 18	検 2 他 1	検 2		検 1
		56.5			43.5			56.2			43.8	

(備考) 1) () 中は女子数で内数。

2) 外国学校出身者のための選考を含む。 法 学 部……志願者75名, 入学者13名
経済学部…… “ 42名, “ 5名

